

◆日本史◆ 科目別講評

(1)出題方針

出題の基本方針は、例年と変わることなく、以下の2点だった。

① 高等学校教科書『日本史 B』の範囲を逸脱しないこと。

教科書の範囲とは、各出版社の『日本史 B』全体を対象とし、その本文はもとより、脚注、口絵・図版・各種の図表及びその解説、史料、年表など、教科書に盛り込まれた内容全体を意味する。

ただし、史料や図表、問題のリード文などについては教科書以外からも出題する。また、教科書への掲載頻度が低い用語はできるだけ避けるが、多面的な歴史理解を求める必要から、やや難しい歴史用語やニュースなどに頻出する時事用語、高校生レベルで身につけていると思われる基本的な語句を使用することもある。しかし、いずれの場合でも、教科書の知識で正答を導き出せるように配慮している。

② 当該年度内の問題全体の中で、時代や分野において偏りがないように出題すること。

この基本方針にもとづいて、本年度は、

(102)古代・対外交渉(45点)/中世・社会経済(45点)/近世～近現代・政治(60点)

(103)古代～中世・文化(60点)/近世・対外交渉(45点)/近現代・政治(45点)

(104)古代・政治(45点)/中世・文化(45点)/近世～近現代・社会経済(60点)

(105)古代・社会経済(45点)/中世・政治(45点)/近世～近現代・文化(60点)

(106)古代～中世・政治(60点)/近世・文化(45点)/近現代・対外交渉(45点)

(107)古代～中世・対外交渉(60点)/近世・社会経済(45点)/近現代・文化(45点)

という、時代と分野の枠組みバランスから、出題することとした。

(2)解答状況および解説

各学部・学科別の受験者・合格者の平均点は「受験者・合格者の科目別平均点」(p.10)を参照してほしい。全体としての出題の難易度は例年と大差はなかったと考えるが、(105)が日本史を選択した受験者全体の平均得点率 58.3%・合格者全体の平均得点率 71.9%と低く、(102)受験者平均得点率 64.5%・合格者平均得点率 77.2%、(107)受験者平均得点率 66.4%・合格者平均得点率 79.2%がこれに次ぐ。他の日程ではおおよそ、受験者全体平均得点率で 70～75%、合格者平均得点率で 81～86%の幅に収まる。

以下、日程別の大問ごとの全体傾向を、合格者の平均得点率で示すと、(102)〔I〕83.8%〔II〕75.6%〔III〕73.5%、(103)〔I〕80.0%〔II〕84.9%〔III〕84.9%、(104)〔I〕86.2%〔II〕83.6%〔III〕87.0%、(105)〔I〕60.7%〔II〕78.9%〔III〕75.0%、(106)〔I〕75.2%〔II〕82.7%〔III〕88.2%、(107)〔I〕77.2%〔II〕85.8%〔III〕75.3%である。受験生にとってのおおよその難易度が知れよう。この中では、(105)〔I〕古代の貴族生活に特に苦しんでおり、受験者平均得点率では 48.0%だった。一部細部にわたる出題を含むがその多くは教科書に扱われているもので、生活史は受験者には目が届きにくい分野のようだ。

また、合格者と受験者全体との間の平均得点率に 15%前後の大きな差が生じたのは、(102)〔III〕幕末政治史・近代地方制度史、(103)〔I〕南都の仏教史、(105)〔II〕戦国時代の領国支配、(107)〔III〕廃仏毀釈・転向、といった大問である。いずれも、各地域での史実を中央の動きと関連させて問う設問で得点差が出た。特に(105)〔II〕は教科書の記述に準拠したものであり、中央史を通して地域を位置づける学習が望まれる。

また、個別の設問についての記述解答では、例年と同じく、正確な歴史用語を習得していないための誤答や、設問の指示を見逃す誤答(文字数指定、空欄の文言指定など)も多くみられた。設問のうちには、たしかに教科書の内容をさらに踏み込んで問おうとしたものもあるが、これらについては全受験者の正答率が低いわけだから、むしろ可否を左右するのは比較的容易な設問群での着実な得点である。

(3)受験生へのメッセージ

受験上の助言として心がけてもらうことを挙げれば、以下のとおりである。

- ① 出題方針で述べたように、教科書の範囲を大きく逸脱することはないので、まずは教科書を熟読して、基本的な内容を理解することが根本である。また、本学の問題は、歴史用語を記述する問題と語群選択の問題に大別され、どちらかといえば記述問題の方が得点差が大きくなる傾向があるので、歴史用語を漢字で正確に書くこと、設問の指示に注意することなどに、日頃から心がけて学習してほしい。
- ② 個々の知識を大きな歴史の流れの中で理解することが大切である。それによって知識を系統立てて習得できるからである。その際に、時代別だけでなく様々な分野史、たとえば政治史や社会経済史・対外交渉史などを通史的に学習しておくことも有効な方法であろう。対外交渉史では、欧米との関係だけでなく、アジアとの関係について問うことも多い。また、これも出題方針で述べたことだが、各分野を満遍なく問うため、教科書の分野別記載ページ数比率よりもやや文化史が多くなる傾向にあることにも留意しておきたい。
- ③ 日本史は、現在の日本列島のどこにでもその手がかりを見つけることが可能であり、各地の博物館や美術館などでは多様な文化遺産を目にすることもできる。マスコミなどでとりあげられる年中行事や文化財、発掘調査に関わる情報なども、歴史を身近に感じるきっかけになるだろう。日頃の生活の中で、常に歴史との関わりを意識し、また歴史への関心を育てていただくよう切望する。

◆日本史◆ 出題の意図

102	出題の意図
[Ⅰ]	更新世～6世紀における日本列島と大陸との人類移動・対外交渉について、その通時代的理解を問うた。
[Ⅱ]	教科書に頻出する8つの史料を通して、中世の社会経済に関する基本的事項と史料の理解度を問うた。
[Ⅲ]	薩摩藩を中心とする幕末政治史と近代の地方制度に関して、その多角的な理解を求めた。
103	出題の意図
[Ⅰ]	南都における仏教寺院の展開をもとに、古代・中世の宗教・美術・建築・政治などの総合的な理解を問うた。
[Ⅱ]	近世の対外交渉に関する基本史料から、その基礎的な事項の把握度を確認する出題。
[Ⅲ]	「大正デモクラシー」と大正期における社会運動の展開に関して、その基本的な理解を問うた。
104	出題の意図
[Ⅰ]	飛鳥～奈良時代における6人の人物記述をもとに、古代政治史上の基本的知識の理解度を問うた。
[Ⅱ]	鎌倉～室町文化における中国の影響とその日本的展開について、その具体的な把握度を問うた。
[Ⅲ]	徳川幕府の社会経済政策・藩政改革、大正・昭和初期の経済に関して、教科書記述の理解を確認した。
105	出題の意図
[Ⅰ]	平安貴族の一生・衣食住・信仰などについて、その基本的な知識の把握を求めた。
[Ⅱ]	応仁の乱以降の政争と戦国大名の領国支配に関する教科書記述をもとに、その基礎的な理解を確認した。
[Ⅲ]	国民国家形成期の日本における思想・教育・学問などの展開に関して、その理解を多角的に問うた。
106	出題の意図
[Ⅰ]	古代・中世の政治に関する5つの史料をもとに、政治・経済・文化などの総合的な理解を求めた。
[Ⅱ]	『西洋紀聞』『養生訓』『武道伝来記』を通して、近世文化に関する基礎的知識の理解度を問う出題。
[Ⅲ]	日清戦争～第二次世界大戦後の日中関係について、その基本史料の把握と通時代的理解を問うた。
107	出題の意図
[Ⅰ]	9～15世紀における日本と東アジアとの対外交渉・国際関係に関して、その多面的な理解を求めた。
[Ⅱ]	近世の全国市場経済に関わる交通網・貨幣制度について、教科書が記述する基本事項を問うた。
[Ⅲ]	明治初期の「廃仏毀釈」・昭和期の「転向」に関する記述をもとに、文化・社会の理解を多角的に問うた。